

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイ えま		公表日		令和8年 2月 14日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		○		利用児の特性や支援内容によっては、より手厚い支援が必要な場面があるため、シフト調整や応援体制の工夫を行い、状況に応じた柔軟な配置ができるよう努めています。	急な欠勤や状況の変化が生じた場合、十分な余裕を持った配置が難しい場面もあるため、今後は応援体制や人員確保の方法について検討し、より安定した職員配置が行えるよう検討していきます。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		こどもが見通しを持って活動できるよう、動線や活動スペースを意識し、わかりやすい環境づくりに努めています。また、安全確認を行いながら支援を実施しています。	入浴設備が屋外に位置しており安全面での配慮が十分とは言えない状況があります。今後は、移動時や入浴時の安全確保に向けた手順の見直しや、連絡体制の工夫、設備面での改善について検討していきます。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		日常的な、清掃や消毒を行い、衛生面の維持に努めています。	こどもたちが物に手を伸ばしやすい環境である一方、衛生面との両立が難しい状況があるため、収納方法や配置の工夫を検討し、より清潔で心地よい空間となるよう改善を図っていきます。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		必要に応じて、カーテンや簡易的に仕切りを用い、落ち着いて過ごせる空間を確保するよう努めています。	個別の部屋を常時確保することが難しく、体調不良時の対応やプライバシーの確保に課題があります。スペースの使い方や環境設定を見直し、より安心して個別対応が行える環境づくりを検討していきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○		定期的に会議を実施し、業務上の課題や改善点について意見を出し合う機会を設けています。職員全体で情報共有を行い、業務改善に対する共通認識を持てるよう努めています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○			会議では主に業務内容が中心となっており、個別の悩み等に対して職員が安心して意見表出ができる機会や方法について検討していきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			○		第三者による外部評価は実施していません。今後は、外部評価の活用について情報収集を行い、事業所の実情に応じた導入を検討していきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		○		社内研修や外部研修への参加の機会を確保しています。研修で得た学びを職員間で共有し、日々の支援や業務に活かせるよう努めています。	研修で得た知識を、より実践的に業務へ反映できるよう、振り返りや共有の方法について検討していきます。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		○		保護者と面談をしたり、こども一人ひとりの状況についてアセスメントを行い、職員間で情報共有や検討をし、放課後等デイサービス計画書を作成しています。	こどもや保護者のニーズや課題、変化を計画に反映できるよう、引き続き質の向上を図っていきます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		○		児童発達支援管理責任者を中心にこどもの支援に関わる職員が情報共有を行っています。話し合いの場では、職種や立場に関わらず意見を出し合えるよう配慮しています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		○		日々の支援において、計画に基づいた支援が行えるよう、職員同士で確認や情報共有を行っています。	計画内容の理解や実施方法に職員間で差が出ないよう、共有方法の工夫を検討していきます。また、計画に沿った支援が継続的に行われるよう、定期的な確認や振り返りの機会の充実を図っていきます。

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の支援の中で、行動観察や関わりを通して、こどもの状況を継続的に把握しています。職員間で内容を共有し、支援や計画作成に活かしています。	主に日々の行動観察等によるインフォーマルなアセスメントが中心になっており、標準化されたアセスメントツールの活用には至っていないため、今後は必要に応じてフォーマルなアセスメントの活用について検討し、より客観的な評価につなげていくことが課題となっています。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			各支援項目について、より具体的で分かりやすい内容になるよう質の向上に努めています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員間で意見を出し合いながらその日の利用児に合わせた活動プログラムの立案を行っています。	活動プログラムの検討や振り返りの機会を充実させ、支援内容の質の向上に努めています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		職員間で意見を出し合いながら、活動の幅を広げられるよう取り組んでいます。	活動プログラムのレパートリーが十分とはいえない面があるため、研修や情報共有等を通じて活動内容のレパートリーを増やし、より多様な活動を提供できるよう努めています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		活動の内容や参加方法について柔軟に調整し、無理のない形で支援が行えるよう努めています。	こどもの変化に応じて、活動内容や支援計画を適切に見直ししながら、支援の質の向上に努めています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前に職員間で打ち合わせを行い、その日の支援内容や役割分担について確認しています。その時の状況に合わせ、臨機応変に対応できるよう職員同士が声を掛け合い、支援するよう意識しています。	時間的な制約があり、十分な打ち合わせを行えない場合があるため、確実な打ち合わせ方法の工夫を検討していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援中に気付いた点やこどもの様子について共有するよう努めています。	業務の都合等により、全ての日に十分な振り返りの時間を確保できていない場合があるため、短時間でも確実に情報共有が行える仕組みを検討し、振り返りの定着を図っていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録内容をもとに振り返りの機会を設け、支援の検証や改善につなげています。	職員間で記録内容や記載方法にばらつきが出ないよう、整理や統一を図っていきます。記録をより効果的に支援の改善に活かせるよう、振り返りの方法について工夫を検討していきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを実施し、こどもの状況について確認、支援内容の見直しを行っています。職員間で情報共有を行い、支援内容の統一を図っています。	モニタリングの内容や記録について、より分かりやすく整理し、適切な見直しが行えるよう努めています。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		こどもの状況に応じて、活動内容や関わり方を工夫しています。	支援内容の質の向上に努めています。
関係機関や保	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動内容や関わり方について、こどもが自ら選択できる機会を設けています。こどもの気持ちや意思を尊重し、無理のない形で自己決定が出来るような支援を意識しています。また、こどもの状況に応じて、選択肢の提示方法を工夫しています。	こども一人ひとりに合った自己選択・自己決定の支援方法について、引き続き検討していきます。日々の支援の中で、より多くの場面で自己決定する力を育てるよう、支援の工夫を重ねていきます。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		こどもの状況をよく理解している職員が参画し、日頃の支援の様子を共有しながら連携を図っています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて、関係機関と情報共有や担当者会議を行い、支援につなげるよう努めています。	今後も、より円滑な情報共有や協働体制の充実を図り、関係機関との連携強化に努めています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		送迎時など日々の関わりの中で連絡調整を行っています。必要に応じて学校と連絡を取り合い、情報の共有や適切な対応に努めています。	学校とよりスムーズな情報共有が図れるよう、調整や工夫を重ねていきます。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて情報共有を行い、こどもの状況やこれまでの支援内容について理解を深めるよう努めています。	必要に応じて情報共有の機会を増やし、相互理解を深めていくよう努めています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		移行時には、それまでの支援内容等について必要に応じて、情報提供を行っています。	

保護者との連携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じて情報共有や相談を行い、助言を受けるなどの連携を図っています。	スーパーバイズや研修を受ける機会が限られているため、今後は連携を深め、必要に応じて助言や研修を受けられる体制づくりに努めていきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		こどもの状況や安全面に配慮しながら、交流の機会を検討していきます。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○		地域の部会等に参加し、関係機関との情報共有や意見交換を行っています。	部会等への参加の機会をふやし、今後も地域連携に努めていきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日頃から連絡帳や送迎時のやり取り、必要に応じて面談等を通して、こどもの様子について保護者と情報共有を行っています。	今後も、保護者との共通理解をさらに深めていけるよう、より分かりやすく丁寧な情報共有に努めていきます。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		家族支援プログラムや研修の機会については十分に提供できていないため、今後は家族支援に関する情報提供や、研修機会の確保について検討していきます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		書面や口頭で説明を行っています。保護者が理解しやすいよう、丁寧な説明を心がけています。	今後も、保護者が安心して利用できるよう、説明方法について工夫を重ねていきます。
	37	放課後等デイサービス計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談等を通して意向を確認する機会を設けています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画書を示しながら支援内容を説明し、保護者の同意を得ています。不明点があれば、その都度説明を行うよう心がけています。	今後も、保護者がより理解しやすい説明となるよう、説明方法の工夫に努めていきます。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		必要に応じて面談や助言、支援を行っています。	今後も、保護者が相談しやすい環境づくりを意識し、より丁寧な対応が行えるよう努めていきます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	父母の会や保護者会といった形での開催は行っていませんが、行事の際には、保護者やきょうだいの参加を歓迎し、交流の機会となるよう配慮しています。	定期的な保護者同士やきょうだい同士の交流の場は設けられていないため、今後は行事等を通じた交流のあり方について、保護者の意向に配慮しながら検討していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者からの相談については随時受け付けていることを周知し、相談や苦情があった場合には、迅速かつ適切な対応を行うよう努めています。	苦情窓口を設置しており、その内容については重要事項説明書に詳細を記載し、契約時に丁寧な説明を行っています。今後も保護者が相談しやすい体制の維持と周知に努めていきます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		定期的におたよりを発行するとともに、必要に応じてHPやSNS等を活用し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を発信しています。	情報発信の方法や頻度については、より分かりやすく伝えられるよう、今後も工夫を重ねていきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取扱いに十分留意し、適切な管理に努めています。	今後も、個人情報の適切な管理が徹底されるよう、職員への周知や確認を継続していきます。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		こどもの特性に応じた言葉かけや伝え方を工夫するとともに、保護者とは連絡帳や送迎時のやり取りを通して、日常的に情報共有を行っています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	現在、地域住民を招待した行事の実施には至っていません。	地域との関わり方について、安全面やこどもの状況、保護者の意向に配慮しながら、今後検討していきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアル等を策定し、職員に対して内容の周知を行うとともに、発生を想定した訓練を実施しています。	マニュアルの内容について、保護者への周知は十分とはいえないため、今後は周知方法の工夫に努めていきます。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○	業務継続計画(BCP)を策定し、非常災害の発生に備えて、定期的に避難訓練等を実施しています。	今後も、訓練内容の見直しや職員間での共有を行い、より実践的な対応ができるよう努めていきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		必要に応じて保護者に確認を行い、職員間で情報を共有しています。	今後も情報の更新漏れがないよう、定期的な確認と記録の見直しに努めていきます。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーのあるこどもについては、保護者に医師への確認を行ってもらい、その内容をもとにアレルギーの状況や注意点を把握し、職員間で共有しています。	医師の指示書の提出については今後の課題とし、必要に応じて取得や確認方法について検討し、より安全な対応が行えるよう努めていきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、研修や訓練を通して安全管理を意識した支援を行っています。	今後も研修や訓練の充実を図り、安全管理の向上に努めていきます。

対応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画に基づく取組内容について、必要に応じて保護者へ説明を行っています。	今後は、より分かりやすい形での周知を行い、家族との連携をさらに深めていけるよう努めていきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例を事業所内で共有し、再発防止に向けた対応について職員間で検討しています。	今後も共有方法や振り返りの機会を工夫し、再発防止の取組を継続していきます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止に関する外部研修への積極的な参加を促し、職員の意識向上と適切な対応に努めています。	今後も継続的に職員の研修への参加を促すとともに、虐待防止に対する理解をさらに深めていきます。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		虐待防止委員会において判断基準を定め、子どもや保護者へ事前に説明し、同意を得た上で個別支援計画書に記載しています。	今後も、身体拘束に関する理解を深めるとともに、必要最小限となるよう職員間での共通理解と検討を重ねていきます。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	児童デイ えま					公表日	令和8年2月14日	
					利用児童数	12名	回収数	8名
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8				その日の利用児が全員高校生ということ を想像すると狭いかも?と感じますが、 それよりも清潔で居心地のいい空間が重 要だと思っており、現状問題ありませ ん。	当事業所では、法令に基づくスペースを 確保し、日々の清掃や環境整備を行うと ともに、利用児の年齢や人数、活動内容 に応じて配置を工夫し、安心して過ごせ る環境づくりを行っています。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	6	1		1	利用児一人ひとりに目を配ってもらえて ると感じており、問題を感じたことはあ りません。	今後も適切な職員配置を心がけながら、 安心してご利用頂ける支援体制を大切に していきます。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6	1		1	子供がどんな設備で過ごしているか詳し く知らない。	利用児一人ひとりに配慮し環境整備や情 報伝達等への工夫を行っていますが、今 後は保護者の皆様により分かりやすくお 伝えできるよう、情報提供の工夫に努め ていきます。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。 また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7	1			季節に応じて壁に飾りがしていたり、子 供たちにも伝わりやすいと思います。	今後も、清潔で、心地よく、活動に合わ せた環境づくりを大切にしています。	
適切 な支 援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	7	1				子ども一人ひとりの特性を大切にしま ながら、支援の提供を行っています。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	8						
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されて いると思いますか。	8				何よりも子供たちのことを心から可愛 く思ってくれていることが伝わり、安心し て利用することができています。	今後も、子ども一人ひとりを大切にしま ながら、ニーズに応じた計画作成と支援を 行っていきます。	
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの 「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支 援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適 切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いま すか。	8						
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8						
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いま すか。	6				2	外へのお出かけも積極的に取り入れてく れており、大変嬉しく思っています。 家族だけでは経験させてあげられないこ とが出来ていると思います。	今後も、子どもたちの興味や成長に合わ せ、活動内容が固定化されないよう工夫 を重ねていきます。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会 がありますか。	2		1		4	そのような機会があるとどちらにとつ てもプラスの経験となりそうですね。	子どもたちの体調や安全面等に配慮しま ながら、交流の機会を検討していきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につ いて丁寧な説明がありましたか。	6	1	1			運営規定、支援プログラム、利用者負担 等について、今後さらに分かりやすい説 明を心がけていきます。	
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされま したか。	7		1			放課後等デイサービス計画をもとに支援 内容の説明を行っておりますが、今後も より丁寧で分かりやすい説明を大切に していきます。	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われています か。	5	1			2	今後、家族支援に関する取り組みにつ いて、より分かりやすくお伝え出来るよ う心がけていきます。	
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状態に ついて共通理解ができていると思いますか。	8						
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6	1	1			話す機会がありません。	面談等の機会について、より分かりやす くお伝えしていきます。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7	1					今後も、子どもや家族の思いに寄り添 った関わりを大切にしていきます。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流 の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだ い向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けら れるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	1			3	前回のクリスマス会がそれに当たるの か?と感じます。 きょうだい同士の交流会が自然とでき ると嬉しく思います。	行事等を通じた関わりを大切にしま ながら、交流機会を検討していきます。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7		1			より丁寧な周知と説明を行っていきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7	1				今後も、子どもや保護者との丁寧なコミュニケーションを大切にしていきます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7	1				ホームページ等を通じて、必要な情報を分かりやすく発信していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7			1		今後も、個人情報の適切な管理と取扱いに十分留意します。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	3		1	4	そのようなマニュアルの話を聞いた記憶はないです。	各種マニュアルの整備及び訓練等を行っておりますが、今後は保護者の皆さまへ、より分かりやすくお伝えできるよう工夫していきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3			5	実際に災害が起きた場合どこに迎えに行くのか、逆に迎えに行くことを控えるパターンはどのようなどきか等把握できていません。定期的に避難訓練をされてるのかわかりません。	非常災害に備えた訓練等を行っておりますが、今後は災害時の対応についてより分かりやすくお伝え出来るよう工夫していきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6				2	当事業所では、安全を最優先に支援を行っておりますが、今後は安全確保に関する計画や取り組みについて、より分かりやすくお伝えできるよう工夫していきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	8					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	8					ご機嫌よく通えています。安心できる場所のようです。
	29	事業所の支援に満足していますか。	8					いつもありがとうございます。利用希望日は概ね利用でき、入浴支援も助かります。イベントも色々企画していただき、楽しく過ごせています。

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイ えま		
○保護者評価実施期間	令和8年1月8日		令和8年1月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	令和8年1月5日		令和8年1月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月14日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	環境整備・人員配置	利用児一人ひとりの体調や特性に応じて、環境整備や人員配置を行い、職員間で日々情報共有を図りながら、安心して過ごせる支援環境づくりを意識して取り組んでいます。また、必要に応じて加配を付け、関係機関とも連携しながら柔軟な支援体制を整えています。	利用児の状態変化に応じた支援が行えるよう、情報共有の方法や人員配置について定期的な見直しを行い、より柔軟で安定した支援体制の構築に取り組んでいきます。
2	一人ひとりに応じた支援の提供	連絡帳や送迎時のやりとり、保護者との日常的なコミュニケーションを通じて利用児の状況把握に努め、職員間で共有することで、個性を重視した支援を行っています。活動内容についても固定化せず、利用児の状況や興味・関心に応じた工夫を意識しています。	利用児の状況や変化を職員間で丁寧に共有し、個別支援計画を踏まえた関わりや活動内容の工夫を継続することで、より一人ひとりに応じた支援の充実に取り組んでいきます。
3	こどもおよび保護者との信頼関係	日々の関わりを丁寧に、支援内容や利用児の様子について分かりやすく伝えることを心がけています。保護者からの相談や意見にも柔軟に対応し、信頼関係の構築を意識した関わりを継続しています。	保護者との日常的なコミュニケーションを大切にし、利用児の様子や支援内容を丁寧に伝えるとともに、相談しやすい関係づくりを意識することで、信頼関係を基盤とした支援の充実を図っていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会の確保	利用児の体調が安定しない場合も多く、外出や地域交流の機会を十分に設けることが難しい状況があります。そのため、地域との関わりが限定的になっている点が課題と考えています。	利用児の体調や状況に配慮しながら、無理のない範囲で地域とのつながりを持つ方法を検討していきます。
2	家族支援の充実	保護者同士が交流できる機会が少なく、情報共有や相互支援につながりにくい状況があります。家庭ごとのニーズの把握や支援の幅を広げる点において更なる検討が必要と考えています。	保護者や利用児のニーズを踏まえた家族支援の在り方について職員間で検討を重ね、必要に応じて交流の機会や情報提供の場を設けていきます。
3	非常対応に対する保護者への周知	施設内での訓練や対応体制は整えていますが、保護者への説明や情報提供が十分に行き届いていない面があり、理解を深めてもらうための工夫が必要と考えています。	非常時の対応や訓練内容については、連絡帳やおたより、ホームページ等を活用し、保護者への周知方法を工夫していきます。また、必要に応じて説明の機会を設けるなど、保護者の理解が深まるような周知方法の見直しを進めていきます。